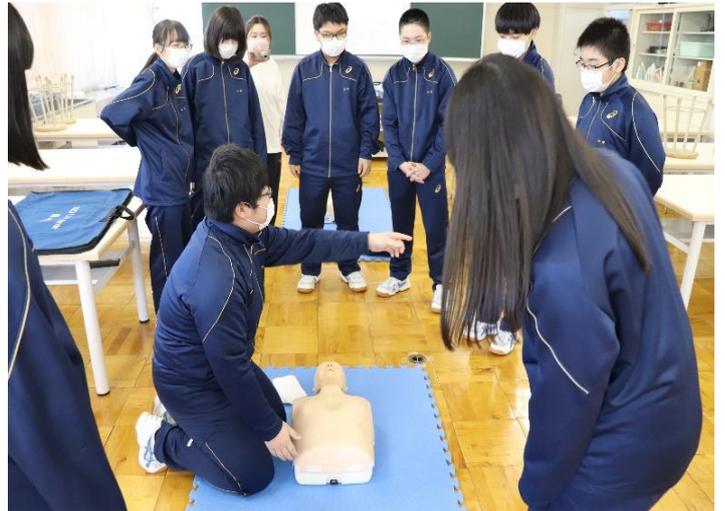


オンラインによる1・2学年保健「救命救急講座」

3月9日（水）保健の授業の一環で、紋別地区消防組合興部支署松田救急係長様を講師としてお招きし、1・2学年対象に救命救急講座を行いました。コロナ禍の影響によるオンラインでの開催は、紋別地区消防組合内（紋別市・興部町・西興部村・雄武町・滝上町）初の試みとなりました。保健体育科の伊藤教諭が生徒の様子をオンラインで消防署の講師に中継することにより、生徒は心肺蘇生法や日常的な応急手当、異物除去方法や負傷者の搬送方法など、救命救急の正しい手順や方法について学ぶことができました。ICTを活用し、コロナ禍における授業実践となりました。講師の松田様に感謝申し上げます。



実技「心肺蘇生法」の様子
保健体育科教諭が実技の様子を消防署と
中継し、生徒に指導していただきました。

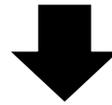
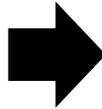
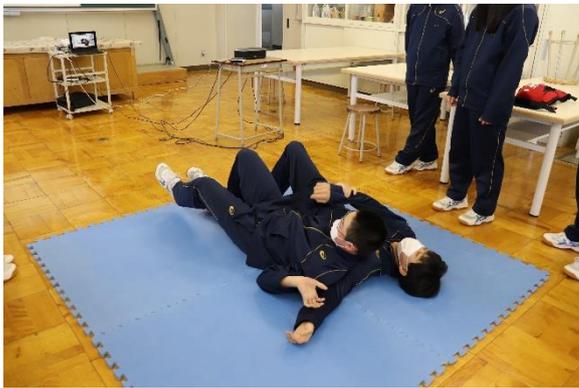


実技「異物除去」の様子

専用のバックを背負い、背後からしっかり腹部を圧迫することができると、スポンジが飛びます。



実技「回復体位」の様子



実技「負傷者の搬送方法」の様子



実技「日常的な応急手当」の様子

◎講師を務めていただいた紋別地区消防組合興部支署救急係長 松田幸司様からの講評

「新型コロナウイルス感染症拡大のため対面での救急講習ができず、オンラインでの開催となってしまいました。しかし、画面越しでも3時間集中を切らさず講義や実技に取り組みされており非常に好感を持ちました。救急蘇生法などの応急手当は使う機会がないのが一番ですが、災害と同じでいつどこで起きるかわかりません。もしその場面に出会ったときに手を差し伸べられる優しい勇気のある人になっていただきたいと思います。」

◎受講した生徒の感想（一部）

- 心肺蘇生法や AED の使用方法などを再確認することができ、覚えることができた。いざという時に自分から助ける勇気も必要であると学んだ。
- 人形を使った胸骨圧迫では力が足りなくてなかなか5cm まで沈むことができず、人間で行うとすると、それ以上の力が必要だと感じた。
- 画面越しでの講座でしたが、わかりやすい説明でした。今回の授業で学んだことを忘れず、いざという時に助けることができる人間になりたいです。
- 授業でどのような場面でどのように行うか方法は知っていたけれど、実際にやってみると意外と難しくて、授業として出来て良かった。



受講した生徒は
普通救命講習修了証が授与されました。